

# 円居

まどろ

令和7年12月23日(火)  
備前市立備前中学校  
校長 藤森 卓麻  
0869-64-3365

## 自他共に受け入れる力

### ― スクールドッグから考える ―

12月10日世界人権デー。今年は、クラスごとに人権について考える時間を3日に分けて持ったあと、人権講演会を開催しました。講師としてお招きしたのは、日本スクールドッグ協会の青木さん、演題は「心を開くのは『ことば』だけじゃない。スクールドッグが教えてくれる他者理解のヒント」。キーワードは**他者理解**。青木さんはこう言われました。「他者理解というのは、**相手と同じ気持ちになることではなく、違いを思い知ること、思いを受け止めようとする**ことだ。」と。「これは簡単なことではなくて、日頃から練習する必要がある。」とも言われました。確かに難しい。目に見えない相手の思いを受け取る練習をするというのは、日頃から意識をすることではないでしょうか。ぼんやりではなく、自分の目で見て、立ち止まって考える。はて…？自分との違いに気づくには、まずは自分に目を向ける必要があるかもしれません。

備前中で身につけてほしい力の一つが「自他共に受け入れる力」。自分と他の人、両方を受け入れる力です。**自分を受け入れる**というのは、自分に自信を持つと同時に、自分で考えた結果（＝自分の言動）に責任

を持つということにもなります。無責任な言動は、時にただの自分勝手になってしまっています。ここで『世界人権宣言』をあらためて確認。

#### 第29条 ― 権利と身勝手は違う ―

わたしたちはみな、すべての人の自由と権利を守り、住み良い世の中を作る為の義務を負っています。自分の自由と権利は、ほかの人々の自由と権利を守る時のみ、制限されます。

#### 第30条 ― 権利を奪う権利はない ―

この宣言でうたわれている自由と権利を、ほかの人の自由と権利をこわすために使ってはなりません。どんな国にも、集団にも、人にも、そのような権利はないのです。

出典：アムネスティ日本HP

「わかりやすい世界人権宣言」

条文訳：谷川俊太郎・アムネスティ日本

学校で勉強する権利、学校で楽しく過ごす権利はみんなにあります。その権利を奪う権利は誰にもありません。**他の人を受け入れる**というのと同じことで、好き勝手に行動することを受け入れることではありません。ここで、未だに誤解している人がいる備前中の校則…。あらためて確認。

#### 【理念】

**決まりの有無に関わらず、その場に  
応じて正しく判断する。**

※全ての決まりがここに通じる。

#### 【改定の意図】

従来のままでは、校則で決められているから、という理由で『やる』『やらない』を判断するようになってしまっている。細かく決められていなくても自分で考え、正しく判断できる生徒でありたい。との考えから。

備前中「服装・持ち物等の規定」

これは、先輩を含め、時間をかけて積み上げてきたものです。「その場にに応じて」とあります。学校という場所、そこで過ごす時間、活動の目的…、「今」がいつたいどういう「場」なのか。それを考えるということは、周りの人のことを思い遣(や)るということなのです。その思い遣った気持ちを、言葉だけではなく、身なりや態度でも表すのです。「個性」や「多様性」を振りかざして学校の決まりを守らないのは言語道断。残念ながら、「その場」を、そもそも勘違いしているのではないかとということを見聞します。

#### ― ご家庭でのご協力を ―

校内で撮られた写真がSNSに上がるといった事案がありました。どうやら授業中の写真もあるようです。特殊なアプリがある背景には、仲間と繋がる感覚、安心感、繋がりが、あるらしい。備前中が大切にしている「繋がりはこれではありません。誰かをさらしたり、排除したりすることで得る仲間意識は偽物。次に排除されるのは自分かもしれません。便利なスマホがそんなことに使われる限り、中学校でのスマホ

持ち込み制限はまだまだ続きそうです。(R6年5月20日学校通信『円居』裏面参照) 一方で、授業については、先に書いたような事実があったり、保護者の皆様から心配の声が届いたりするのが現実です。学校全体で組織的に、あるいは個々でもさまざまな取り組みはしているものの、この現実を直視し、また気持ちを新たに、責任を持って授業改善を進めていく覚悟です。



講演会の後、学年ごとにスクールドッグとのふれあい体験を実施。備

前中は一日、優しい空気に包まれています。前に進むエネルギーを持つている子どもたち、やり直しができる子どもたち、素直に物事を受け取ることができる子どもたち…、昨年より今年、1学期より2学期、たくさん生徒たちの成長する場面を見られた2学期ではありましたが、まだまだ課題も多い備前中です。保護者の皆様のご協力も仰ぎながら、前に進んでいきたいと考えます。

子どもたちには充実した冬休みにしてほしいと思います。保護者の皆様、本年も大変お世話になりました。どうぞよいお年をお迎えください。



## 発展途中の備前中です

### ルールについて考える

一 ルールについて考える 一  
修学旅行に行っていました。様々な場面で生徒たちが頑張る姿が見られた一方で、「ルール」に関することで失敗して教員に指導される場面もありました。交通ルールやスポーツのルールのように、そのルールを守らないとどうなるかイメージしやすいものもありますが、ルールを守らないことがどういふことに繋がるのかということ、少し別の視点から考えてみる必要があるのかなと思いました。例えば「時間」。これも二人以上の人が集まって生活する上で必要なきまりの一つです。集合時刻に三分遅れた人がいるとします。たかが三分くらい、かもしれませんが、その三分間何もせずに待っている人が百人いれば、合計三百分（五時間）の時間を奪っていることになりません。しかもその時間は返すことができません。社会では、そのせいでいくらかのお金が損失、という話にもなります。そうなるとう一つ、遅刻した人が失うものがあります。それは「信頼」です。次の集合に間に合えばこのときのミスは取り消されるかという、一度失った信頼を取り戻すには、失ったときの何倍もの労力や時間がかかります。社会に出ればなおさらです。

### 余計なお世話 ー携帯電話・スマートフォンについてー

備前中学校では、校則を無くしていつているわけではありません。時間に関するきまり、身につけるものや身なり、持ち物に関するきまりもあります。「持ってきてはいけないもの」を列挙しているわけではありませんが、携帯電話・スマートフォンについては、校内への持ち込みをはっきり禁止しています。

「居場所確認・緊急連絡のための手段」といった、スマホを校内に持ち込むメリットは考えられます。しかし、使い方を誤ったときのリスクはとても大きなものです。「スマホ依存」「SNS上のトラブル(悪意のある人と繋がる、個人情報の流出、人間関係のこじれ・いじめ等多種にわたる)」といったことが実際に起こっています。

備前中で進めている校則の見直しは、校則を緩めたりなくしたりすることではなく、ルール・きまりを自分事としてその意味を考え、責任を持って正しい行動をしていこう、ということです。「責任」と言いましたが、社会的(世の中の法に触れるようなこと)には中学生はまだ自分では責任をとらせてもらえません。そういう場合責任をとるのは基本的に保護者の皆様です。スマホや携帯電話については、中学生のうちはまだ自分でコントロールができないと考えています。現在の備前中の(ルールを守りきれない危険な)状況から、その子自身もそうですし、周りの子にも危害が及ぶことを防ぐために、余計なお世話ですが、全面的にスマホの持ち込みを許可することはできません。ですから、そういった状況を把握すれば、本人に指導をし、保護者の方にもスマホを取りに来ていただく必要はありません。本来、放課後には、困っている子どもの相談に乗ったり、授業の準備をしたり、部活動の指導をしたり、といったことに時間を割きたいというのが私たちの本意ですが、スマホの指導に時間をとられることで結果的に子どもたちのために時間が使えていないという苦しい状況に陥っています。

#### 〈お願い〉

■スマホに関するリスクについてなど、ご家庭でもお子様と話をしてください。

■学校に持ち込まないような工夫(スマホを預かる等)をしてください。

近い未来に、校内で素晴らしいアイテムとしてスマホを使いこなせる日が来るように、そして我々教職員がお子様のために本来やるべきことに時間を費やせるように、ご協力をぜひお願いいたします。

ただし、通学事情を踏まえて、緊急連絡等の手段として一部持ち込みを許可しています。(※申請書の提出、在校時は学校に預ける等の条件があります。)

自立というのは、自分の依存先を増やすということ、という話を先日のPTA総会でさせていただきました。この先子どもたちは多くの周りに頼り、頼られながら生きていきます。そんな中できまりを守るという意味をあらためて考えてみると、ルールとは、「みんなが安心して気持ちよく生活できるためのもの」。ルールを守ることは、

「人との信頼関係を築くこと」に繋がります。(※自立の観点から言うと、ルールを守ることは、大人になるということかもしれません。)逆に、ルールを違反することは、見つからなかったらいいこと、しかられなかったらいいこと、ではありません。失うものは大きいです。それを教えるのが我々大人の責任であると考えます。



昨年5月に発行した学校通信『円居』(一部抜粋)です。  
保護者の皆様、重ね重ねご協力をよろしくお願いいたします。